

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業  
 (発達障害早期支援研究事業)  
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (宮城教育大学)

1. テーマ

特別支援学校のセンター的機能を活用した附属学校の連携強化による早期支援の充実及び授業のユニバーサルデザインによる継続支援の充実

2. 問題意識・提案背景

近年、附属小学校からの早期支援と附属校園の連携による継続支援が課題となっている。附属幼稚園には発達障害の可能性のある幼児がおり、数年後に附属小学校を経て附属中学校へ進学する。附属小学校では、就学後から児童に対してきめ細やかな指導ができるように、平成 24 年度から少人数学級編成 (1 クラス 30 名) を実施してきたが、入学直後から学習・生活面に困難を示す児童が見られる現状がある。

附属四校園では、平成 16 年度から連携研究に取り組んできた。その中で、特別支援教育の充実を重点課題と捉え、子どもの実態把握、適切な早期支援・継続支援の在り方を探ってきた。平成 22 年度には、附属小学校内に上杉学習支援室 (附属校園内の通級指導教室) が設置され早期・継続支援を実施してきた。本研究事業により、附属小・中学校の特別支援教育体制の推進を図り、適切な早期支援の在り方と連携体制づくり等による継続支援の在り方を探求したいと考え、本研究を提案する。

3. 指定校について

指定校名：宮城教育大学附属小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	118	4	118	4	116	4	140	4	141	4	134	4
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	2		3		2		1		0		0	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	1	31	1	4			3	2	2	46

指定校名：宮城教育大学附属中学校												
	第1学年				第2学年				第3学年			
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数	
通常の学級	152		4		154		4		157		4	
特別支援学級												
通級による指導 (対象者数)	0				1				0			
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援 教員	スクール カウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	1	20	1	8			1			33

#### 4. 指定校における取組概要

<p>〔指定校名：宮城教育大学附属小学校〕</p> <p>①目的・目標</p> <p>特別支援学校のセンター的機能を活用した「上杉学習支援室（附属校園の通級指導教室）」を中核に据えた附属校園の連携強化により，附属小学校入学時からの困難さへの早期支援を充実させる。また，通常の学級における授業のユニバーサルデザインによる授業改善によって教師の専門性を向上させ，継続支援を充実させることを本研究の目的とした。</p> <p>上記の目的を達するために，以下の3つを実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 附属特別支援学校の地域支援コーディネーターによる附属小学校への定期訪問とコンサルテーション（毎週一回，課業期間年間35回以上）の実施</li> <li>2 早期の教育相談を促す目的で保護者向け特別支援教育セミナー（サテライトすぎのこ教室の年3回，参加者延べ120名以上）の開催</li> <li>3 授業のユニバーサルデザインによる授業改善のための教職員研修の充実（教員の受講率100%）</li> </ol> <p>②特別支援学校のセンター的機能を活用した定期巡回訪問による早期支援</p> <p>宮城教育大学附属特別支援学校のセンター的機能を活用し，地域支援コーディネーターが，毎週一回（年間35回以上）附属小・中学校を定期巡回訪問し，早期支援にあたった。</p> <p>附属小学校への定期巡回訪問では，担任が気になる児童について附属小学校では小学4年までの各学級を順番に巡回した。平成27年6月下旬からは，気になる児童の多い第1学年を集中的に巡回した。</p> <p>③保護者向け特別支援教育理解推進セミナー「サテライトすぎのこ教室」</p> <p>早期の教育相談を促すため宮城教育大学附属特別支援学校で開催している「すぎのこ教室」を宮城教育大学附属校園がある上杉地区において「サテライトすぎのこ教室」として年3回実施することを目標にした。また，保護者の参加者数を実施期間中延べ120名以上（小学校入学児童数）とすることを目標に開催した。平成27年度のサテライトすぎのこ教室の実施日と内容を表1に示した。サテライトすぎのこ教室を実施した後すぐに上杉学習支援室を訪れる保護者がおり，早期の教育相談そして，通級による指導へとつながった事例が見られた。</p>
--

表1 サテライトすぎのこ教室の実施日と内容

	日付	内容	対象	参加者
第1回	平成27年9月30日	子どもたちの学びを支援する 上杉学習支援室	附属小学校の 全保護者	600名
第2回	平成27年9月30日	小学1年児童のつまずきの発 見と早期相談	附属小学校の 1学年の保護者	100名
第3回	平成27年2月19日	子どもたちの自己肯定感を高 めるかかわり	附属小学校の 1学年の保護者	100名

#### ④附属四校園特別支援教育研修会

通常の学級における授業のユニバーサルデザインによる授業改善の取組、教職員の専門性を向上させ継続支援を図るための研修受講率を100%とするという目標を設定し、平成27年8月18日に附属四校園特別支援教育研修会を実施した。研修会では、演題を「通常の学級における授業のユニバーサルデザイン」とし、宮城県総合教育センター次長の佐藤瑞恵先生に講師をお願いした。

講演では、授業のユニバーサルデザインとは、どのような考え方を基に実施される授業なのかなど授業のユニバーサルデザインの理念についてご講話をいただいた。

〔指定校名：宮城教育大学附属中学校〕

#### ①目的・目標

特別支援学校のセンター的機能を活用した「上杉学習支援室（附属校園の通級指導教室）」を中核に据えた附属校園の連携強化により、附属中学校入学時からの継続支援を充実させる。また、通常の学級における授業のユニバーサルデザインによる授業改善によって教師の専門性を向上させ、継続支援を充実させることを本研究の目的とした。

上記の目的を達するために、以下の3つを実施した。

- 1 附属特別支援学校の地域支援コーディネーターによる附属小学校への定期訪問とコンサルテーション（毎週一回、授業期間年間35回以上）の実施
- 2 授業のユニバーサルデザインによる授業改善のための教職員研修の充実（教員の受講率100%）

#### ②特別支援学校のセンター的機能を活用した定期巡回訪問による早期支援

宮城教育大学附属特別支援学校のセンター的機能を活用し、地域支援コーディネーターが、毎週一回（年間35回以上）附属小・中学校を定期巡回訪問し、早期支援にあたった。

附属中学校への定期巡回訪問では、附属中学校の特別支援教育コーディネーターから連絡を受け、中学1・2学年の気になる生徒について、授業の様子を参観した。中学校は教科担任制であるため担任の授業の空き時間にケース会や情報交換を関係者で実施した。

#### ③附属四校園特別支援教育研修会

通常の学級における授業のユニバーサルデザインによる授業改善の取組、教職員の専門性を向上させ継続支援を図るための研修受講率を100%とするという目標を設定し、平成27年8月18日に附属四校園特別支援教育研修会を実施した。研修会では、演題を「通常

の学級における授業のユニバーサルデザイン」とし、宮城県総合教育センター次長の佐藤瑞恵先生に講師をお願いした。

講演では、授業のユニバーサルデザインとは、どのような考え方を基に実施される授業なのかなど授業のユニバーサルデザインの理念についてご講話をいただいた。

## 5. 主な成果

〔指定校名：宮城教育大学附属小学校〕

### 【附属特別支援学校の地域支援コーディネーターによる定期巡回訪問】

附属特別支援学校の地域支援コーディネーターが、週1回、年間35回にわたり研究指定校である附属小学校へ定期巡回訪問を行い、教職員に対してコンサルテーション実施することで、共通理解とともに適切な支援を行うことができた。

### 【保護者向け特別支援教育理解推進セミナー「サテライトすぎのこ教室」の実施】

早期の教育相談を促すための保護者向け特別支援教育理解推進セミナー「サテライトすぎのこ教室」を実施した。平成27年度の計3回のサテライトすぎのこ教室の延べ参加者数は、およそ800名であった。いずれのサテライトすぎのこ教室も実施後すぐに上杉学習支援室に教育相談に来る保護者やその後担任を通して教育相談にいたる保護者が多く見られ、早期の教育相談を促すための保護者向け特別支援教育理解推進セミナーであるサテライトすぎのこ教室の効果が見られた。

### 【附属四校園特別支援教育研修会の開催】

研修会では、演題を「通常の学級における授業のユニバーサルデザイン」とし、講師は宮城県総合教育センター次長の佐藤瑞恵先生であった。

講演では、授業のユニバーサルデザインとは、どのような考え方を基に実施される授業なのかについて話しをいただき、授業のユニバーサルデザインの概論についてご講話をいただいた。活発な質疑応答が行われ、授業のユニバーサルデザインの理念について附属四校園の全職員が理解を深めることができた。また、全教員によるアンケート評価では、授業のユニバーサルデザインの実際の取組についてさらに知りたいという意見が多く見られた。

〔指定校名：宮城教育大学附属中学校〕

### 【附属特別支援学校の地域支援コーディネーターによる定期巡回訪問】

附属特別支援学校の地域支援コーディネーターが、附属中学校への定期巡回訪問によるコンサルテーションを週1回、年間35回実施することができた。コンサルテーションでは、授業時間内を使い授業の空いている学級担任や学年主任、校内の特別支援教育コーディネーターと生徒の様子を共有するとともに支援の仕方や内容について専門的な指導助言を行うことができた。

### 【附属四校園特別支援教育研修会の開催】

研修会では、演題を「通常の学級における授業のユニバーサルデザイン」とし、講師

を宮城県総合教育センター次長の佐藤瑞恵先生にお願いした。講演では、授業のユニバーサルデザインとは、どのような考え方を基に実施される授業なのかについて話しをいただき、授業のユニバーサルデザインの概論についてご講話をいただいた。活発な質疑応答が行われ、附属中学校からは英語の授業における授業のユニバーサルデザインの考え方について質問があった。附属四校園特別支援教育研修会によって授業のユニバーサルデザインの理念について附属四校園の全職員が理解を深めることができた。全職員によるアンケート評価では、授業のユニバーサルデザインの実際取組についてさらに知りたいという意見が多く見られた。

## 6. 今後の課題と対応

〔指定名：宮城教育大学附属小学校・中学校共通事項〕

### 【専門家チームの結成と巡回相談の充実】

平成 27 年度は、附属特別支援学校の地域支援コーディネーター、大学教員、外部専門家の巡回訪問の日が別々で設定されていたため、同じ場での情報共有十分でないところがあった。

そこで、平成 28 年度は、大学教員、外部専門家（作業療法士・言語聴覚士）、附属特別支援学校の地域支援コーディネーター、上杉学習支援室長による専門家チームを結成し、附属小・中学校の定期巡回訪問を年間 4 回実施する。

### 【附属四校園特別支援教育研修会】

平成 27 年 8 月に実施した研修会は、演題を「通常の学級における授業のユニバーサルデザイン」とし、授業のユニバーサルデザインについて附属四校園の全職員にご講話をいただいた。全職員にアンケートをとると授業のユニバーサルデザインの実際取組について知りたいという意見が多く見られた。

そこで、平成 28 年度附属四校園特別支援教育研修会では、仙台市教育委員会と連携をし、仙台市特別支援教育研究指定校で授業のユニバーサルデザインを校内研究のテーマとしている仙台市立の小・中学校に来ていただき、シンポジウム形式の研修会を開催する。

〔指定校名：宮城教育大学附属中学校〕

### 【保護者向け特別支援教育セミナー「サテライトすぎのこ教室」の実施】

平成 27 年度は、早期の教育相談を促進するための保護者向け特別支援教育セミナー「サテライトすぎのこ教室」を附属小学校でのみで実施した。

そこで、平成 28 年度は附属中学校においてサテライトすぎのこ教室を年間 3 回実施し、附属中学校の保護者の特別支援教育に関する理解を促す取組を実施する。

## 7. 問い合わせ先

組織名：宮城教育大学

- (1) 担当部署 研究・連携推進課研究協力係
- (2) 所在地 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 149
- (3) 電話番号 022-214-3856
- (4) FAX 番号 022-214-3342
- (5) メールアドレス [kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp](mailto:kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp)